令和4年度　　昭島市立拝島第三小学校　　学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価【総括表】

学校教育目標	○かしこく ◎やさしく ○つよく	ビジョン		
			【目指す学校像】	・子供にとって安全・安心の学校　・保護者や地域とともに子供を育てる学校　・教職員が互いに高め合う学校
			【目指す児童・生徒像】	・よく考え工夫する児童　・相手のことを考え、助け合う児童　・明るく元気な児童
			【目指す教師像】	・質の高い指導を創造できる教師　・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師　・児童、保護者、地域に貢献する仕事であることを自覚する教師

領域	中期経営目標（3年間）	短期経営目標（1年間）	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。	①「問題解決の型」の徹底 ②「学習スタンダード」の徹底 ③朝学習の週5回実施 ④ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった	4	4 学力調査市平均＋5P以上 3 学力調査市平均0P以上 2 学力調査市平均0P未満 1 学力調査市平均－5P未満	4	全国学力・学習状況調査において、全教科で市平均＋5P以上を達成することができた。各方策を予定通り実施できた。	熱心な学習指導に対する成果だと思う。	4	全国だけでなく、都の調査結果についても精査し分析し、学力の維持向上に努める。
		授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業 ④本領発揮プログラムの活用	4 ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。	3	4 児童アンケートで「分かりやすい」が9割以上 3 児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上 2 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上 1 児童アンケートで「分かりやすい」が7割未満	4	全教員が昭島市のユニバーサルデザインの冊子を基に、誰にとっても、やさしい教室環境、分かりやすい授業を心掛けた。7月に行った、児童の学校評価では、「学校の授業は分かりやすい」の肯定的評価が96％であった。	児童の高評価が学習面の成果に表れている。	4	ユニバーサルデザインについては、教員が理解を深めていけるように、引き続き研修などを行う。
		タブレットPCの積極的な活用とキャリア教育の推進	①プログラミング学習に関わる授業（年5回以上） ②キャリア・パスポートに関わる指導（年3回） ③オンライン授業（年3回）	4 全ての教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 3 8割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 2 7割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 1 6割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。	4	4 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が9割以上 3 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が8割以上 2 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が7割以上 1 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が7割未満	4	1学期に行ったオンライン授業では、全ての学年でプログラミング学習を行った。児童の意識調査では、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うこと」に対する肯定的評価が94％であった。	調べ学習やオンライン授業等に活用されてすばらしい。	4	次年度も引き続きオンライン授業やプログラミング学習等、ICT教育の推進を図る。
豊かな心	学校全体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	児童の自己肯定感を高め、個々の良さを発揮できるように、学級活動を実施する。	①校内研究の推進 ②生活スタンダードの徹底 ③QUテストの活用	4 全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4	4 QUの結果で安定感のある学級が3割以上 3 QUの結果で安定感のある学級が2割以上 2 QUの結果で安定感のある学級が1割以上 1 QUの結果で安定感のある学級が1割未満	4	ハイパーQUテストの結果、安定感のある親和的な学級が全体の5割以上との結果が出た。学校全体も落ち着いた雰囲気で、児童の姿勢がよくなり、挨拶もよくできるようになった。	児童一人一人が居心地の良さを感じられる環境がある。学校を訪れた際に児童が気持ちよい挨拶してくれてよかった。	4	取組を引き続き実施していくとともに、縦割り班などの異学年の特別活動を充実させていく。
		教育活動全体を通して、道徳的実践力を身に付けさせる。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③児童が考え議論する道徳	4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した	4	4 いじめ・不登校の出現回数昨年度比2割以上減少 3 いじめ・不登校の出現回数昨年度比1割以上減少 2 いじめ・不登校の出現回数昨年度比変化なし 1 いじめ・不登校の出現回数昨年度比増加	4	令和3年度は、いじめ9件・不登校6名で計15件だった。令和4年度はいじめ3件・不登校5名で計8件となっており、前年度比4割以上の減少を達成することができた。	いじめ・不登校ともに減少傾向にあるのは喜ばしい。今後も継続的な取組を期待する。	4	毎月の報告を確認し、社会通念上のいじめに対しては、対策委員会を開き、迅速に対応しているので、今後も継続していく。
		学校図書館を活用し、読書の啓発に取り組む。	①学校図書館の利用（週1回） ②読書旬間の実施（年3回） ③人権教育を推進する図書の購入	4 全ての学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 3 8割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 2 7割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 1 6割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。	3	4 8割の児童が年間20冊以上の本を借りた 3 7割の児童が年間20冊以上の本を借りた 2 6割の児童が年間20冊以上の本を借りた 1 年間20冊以上の本を借りた児童が6割未満	3	児童一人当たりの貸出冊数は33冊となっている。低中学年児童がよく本を借りて読んでおり、1～4年生の94％が20冊以上の本を借りた。	低学年で94％は評価できる。次年度の高学年の取組に期待したい。	3	取組を引き続き実施していくとともに、高学年児童の読書習慣の定着を目指す。
健やかな体	学校全体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進める	①体力向上プラン（9月改訂） ②コロナ禍でも可能な運動の推進 ③運動週間（年3回） ④本領発揮プログラムの活用	4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行った 3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った 2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った 1 7割未満の教員がプランを活用した指導を行った	4	4 調査結果が昨年比平均ポイントから＋5ポイント以上 3 調査結果が昨年比　～+5ポイント 2 調査結果が昨年比　-5ポイント以内 1 調査結果が昨年比　-5ポイント未満	2	今年度の体力テストの結果、体力合計点は昨年度比-3.4ポイントであった。本領発揮プログラムの活用や様々な対策を行ったにも関わらず前年度よりも低下してしまった。コロナ禍の影響が考えられる。	体力向上には、家庭での食事や睡眠等、総合的な取組をお願いしたい。	2	休み時間の外遊び奨励や体育の活動時間の確保などの改善策を実施し、児童の体力増進を図る。
		日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	①元気アップカードの活用 ②家庭への啓発活動（毎月） ③学校保健委員会（年1回）	4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行った 3 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 2 7割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 1 7割未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った	4	4 9割以上の児童が目標を達成している 3 8割以上の児童が目標を達成している 2 7割以上の児童が目標を達成している 1 7割未満の児童が目標を達成している	1	今年度の体力テストでは学校全体として数値の下降が見られた。目標達成に関しては多くの児童が自分の立てた目標や期待値を下回っている。	次年度の取組に期待したい。	1	児童の取組目標を見直すとともに、成果に関わらず学校体制として外遊びを励行し、室外で動く時間を確保していく。
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育む。	①安全教育全体計画改訂（8月・2月） ②避難訓練の改善（年11回） ③安全指導日の指導（年11回）	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行った 3 8割の教員が、安全指導を計画的に行った 2 7割の教員が、安全指導を計画的に行った 1 6割の教員が、安全指導を計画的に行った	4	4 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価6割以下	4	年度当初よりコロナ対応の避難訓練案と通常の案を作成させ、取り組みを継続できている。令和4年7月の学校評価では「学校はお子様の安全や健康について考える機会を提供している。」に対し、89％の保護者から肯定的な返答があった。	定期的な取組を今後も行って欲しい。	4	今年度は警察と連携して不審者対応訓練を行い、撮影した映像を基に教員間での振り返りを行った。来年度につなげていく。
輝く未来	学校全体として組織的、計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育む。	①学級会活動（年10回以上） ②課題解決型学習の重視 ③タブレットPCの活用	4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った 3 8割以上の学級担任が、学級会活動を10回以上行った 2 7割以上の学級担任が、学級会活動を10回以上行った 1 7割未満の学級担任が、学級会活動を10回以上行った	4	4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 3 8割以上の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 2 7割以上の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 1 児童間のトラブルの出現が減少した学年が7割以下	3	4月当初に比べ、「児童間のトラブルの出現が減少している」との返答とともに、「変わらない」との返答があり、全ての学級での減少とはならなかった。	トラブルがゼロになるのは難しいが、今後も取組を続けて欲しい。	3	児童間トラブルは確実に減少しているが、学級によっては不安定な様子を見せる児童がいるので、学校体制でのフォローを行っていく。
		教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	①各学年で外部人材を活用した授業を計画 ②コロナ禍においても実現可能な交流プログラムの作成	4 全学年の教員が交流体験を実施した 3 8割以上未満の学年・教員が交流体験を実施した 2 7割以上の学年・教員が交流体験を実施した 1 7割未満の学年・教員が交流体験を実施した	2	4 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価6割以下	4	感染対策に配慮しながら、各学年ともゲストティーチャーを招聘したり、近くの施設に出かけたりして学習を進めてきたさた。7月に行った学校評価では、保護者の肯定的評価が90％であった。	マチコミメールにて写真を送ってもらえたので様子がよく分かった。引き続きの推進をお願いしたい。	4	外部人材との交流体験を十分に行うことができた。来年度も引き続き行えるよう、今年度中に計画を立てる。
		保護者や地域と連携し、行事活動を充実させる。	①PTAや地域と連携して運動会・学習発表会・研究発表会を行う。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動の強化を行う。	4 PTAや地域と年4回以上の連携ができた。 3 PTAや地域と年3回以上の連携ができた。 2 PTAや地域と年2回以上の連携ができた。 1 PTAや地域との連携は年2回以下だった。	3	4 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価（関係項目）肯定的評価6割以下	4	5月の運動会はPTAや地域の方の協力のもと、滞りなく実施することができた。9月と1月のあいさつ運動なども両者で協力して行った。7月に行った学校評価では、保護者の肯定的評価が87％であった。	少しずつ交流が復活してきた。コロナ禍の中でPTAや地域とよい関係よい活動ができている。	4	引き続き、PTAや地域の方々と連携を図りながら行事活動を実施していく。